



## 【児童委員編】

### ■悪い対応

中学校2年生の鈴木君。1か月前から同じサッカー部の仲間に見捨てられたり、練習の予定を教えてもらえないなどのいじめに遭っていました。ここ1週間は部活も休むようになり、今朝は、家をでたものの学校には向かいませんでした。そんな鈴木君に児童委員が声をかけます。

#### (コンビニエンスストア前)

男子：(コンビニでジュースを購入し、お店の前でジュースを飲んでいる。周りの目も気にせず、コンビニの前に立っている。元気がなく、ため息をつき、思いつめた表情。)



児童委員：(鈴木君に気づく) **鈴木さんところの太郎君じゃない？**

男子：(うつむきかげんにうなずき、返事)



児童委員：あら、こんな時間にどうしたの？今日は学校、お休み？それとも具合悪いの？

男子：(うつむきながら、うなづき)



児童委員：なんだか、元気なさそうね。いつも元気な太郎君なのよね。**早く学校に行かないと。**  
もう授業始まっている時間でしょう。

男子：(うつむきながら、うなづき)



児童委員：ほんとに、どうしたの？いつもは、元気にあいさつしてくれるのに。

男子：……別に……

児童委員：**もしかしてずる休み？いつも、楽しそうに学校に行っている太郎君なのに、どうしちゃったの。**  
この前、会ったとき、学校楽しいって張り切ってたよね。部活も活躍してるって話じゃない。  
**お母さんがよく話しているわよ。自慢の息子だってね**



男子：学校なんて…楽しくないし、部活なんて…

児童委員：**どうしちゃったの？そんなマイナスなこと。**  
太郎君らしくない。



男子：…だって……(何か言いたげな表情)

児童委員：もしかして、いじめられているとか？

男 子：…（うなずき）…。

児童委員： そうなの！！担任の先生には相談したの？お母さんには？

男 子：（首ふり）

児童委員： 相談した方がいいわよ。

いじめられて、死んじやいたいと思う人だっているんだから、ひどくなる前に、相談した方がいいわよ。

男 子：…お母さんには心配かけるから、相談できない…担任の先生だって…

児童委員： そんなこと言っても、相談しないと。

男 子：…（下を向き黙っている）…

児童委員： もう中学生なんだから、しっかりしなさい。

男 子：…僕なんていなくたっていいんだよ…。  
（だんだんうつむいてくる）

児童委員： いなくたって…、って、そんなことあるわけないでしょう。何言っているのよ。

男 子： どうせ、何やったって駄目なんだから…、サッカーも勉強も…

児童委員： そんな弱音を吐いていてどうするの。これから先、いろんな苦労があるんだから、いじめくらいで。余計にお母さんに心配かけることになるのよ。

男 子：…（下を向き黙っている）…

児童委員： まずは、相談してみることね。大丈夫ね

男 子：…（下を向き黙っている）…

児童委員： こんな時間にウロウロしないで、まずは学校に行った方がいいわよ。お母さんだって心配するんだから。

男 子：…わかりました…

児童委員： じゃあね。元気だしてね。





## ■良い対応

中学校2年生の鈴木君。1か月前から同じサッカー部の仲間に見捨てられたり、練習の予定を教えてもらえないなどのいじめに遭っていました。ここ1週間は部活も休むようになり、今朝は、家をでたものの学校には向かいませんでした。そんな鈴木君に児童委員が声をかけます。

### (コンビニエンスストア前)

男子：(コンビニでジュースを購入し、お店の前でジュースを飲んでいる。周りの目も気にせず、コンビニの前に立っている。元気なく、ため息をつき、思いつめた表情。)

児童委員：(鈴木君に気づく) 鈴木さんところの太郎君じゃない？



男子：(うつむきかげんにうなずき、返事)

児童委員：あら、こんな時間にどうしたの？今日は学校、お休み？それとも具合悪いの？



男子：(うつむきながら、うなづき)

児童委員：なんだか、元気なさそうね。いつも元気な太郎君なのよね。具合悪いんだったら、早く帰らないと…

男子：(うつむきながら、うなづき)

児童委員：ほんとに、どうしたの？いつもは、元気にあいさつしてくれるのに。

男子：……別に……

児童委員：何かあったのかなあ？



男子：…(首を振り否定)…

児童委員：私ね、この前太郎君みかけていたけど、最近は、元気がなさそうに登校しているから、少し心配していたのよ。

男子：…(様子を見る)…

児童委員：おばさんに話をきかせてくれない？

男子：……

児童委員：おばさんで良かったら話をしてくれない？おばさんにも力になれることがあるかもしれないし。



男子：僕、みんなに無視されてるんだ…、（ぼつぼつと話出す）  
1か月前くらいから、部活の仲間から無視されるようになって…

児童委員： そうだったのね。



男子： はい。部活の始まりの時に、挨拶しても、返事はないし、ペアで練習することがあっても、誰もペアを組んでもらえなかったりして。今まで、いつもペアになっていた友達ならって思ったけど、だめだった…

児童委員： そう。それは、つらかったね。



男子： はい。部活に行くのが楽しみだったのに、なんだか、行くのもつらくなって。でも、サッカーが好きだから、サッカーができればいいやと思って、我慢して行ってたけど、この前、練習の時間が変更になったことを教えてもらえなくて。練習に行けなかったりしたんです。

児童委員： そうだったの。



男子： そしたら、なんだか、我慢して行っていたのが、ばかばかしくなって…、僕なんて、もう部活には必要ないんだなって思っちゃて。行ってもしかたがないかなって。

児童委員： そう。行っても仕方がないかなって思うほどだったのね。それで、今日も、学校に行けずにいたのね。

男子： はい。

児童委員： つらかったでしょう。よく今まで我慢してきたわね。

男子： …でも、もう限界です（なみだ声）

児童委員： 大変だったわね。そんな状態だったら無理もないわよ。本当によくやってきたわね。



男子： 好きなサッカーができないんだったら、学校に行く意味ないし、勉強したって、いつもそのことばかり考えて、はかどらないし、なにしたって自分はダメなんだよ。サッカーしか取り柄がなかったから、僕からサッカーをとったら、何にも残らない。いなくなると誰も困らないでしょう。

児童委員： いなくなった方が良くと思うほど、思いつめていたのね

男子： （うなづく）でも周りにもいえなくて…

児童委員： 具体的に、いなくなろうって考えることもあったの？



男 子：（うなずき）

サッカーグラウンドの見える学校の屋上に行ったとき、いっそのこと、ここからと飛び降りたら、どんなに楽になんだろうとか、思ったりもしたんだ。でも、勇気がないから、できないけど…

児童委員： そうだったのね。そこまで考えてたんだね。  
辛いのに、よく頑張ってたね。



男 子： 我慢するしかなかったんだ…

みんなに無視されているから、誰にも話せないし、家の人に話したところで、学校のことだから、どうすることもできないだろうって思うし…（泣く）



児童委員： 今まで、一人で悩んできたのね。  
話してくれてありがとう。

おばさんは一緒に考えて助けになりたいと思っているわよ。



男 子：（児童委員を真剣にみている）

児童委員： この前、お母さんに会ったとき、太郎君が元気がないんだって心配していたのよ。どうしたらいいか皆で考えれば解決できるんじゃないかしら。



男 子： そうかなあ？

児童委員： これからおうちに帰って、お母さんにも相談してみない？

男 子： お母さんに…でも、心配かけたくない…



児童委員： お母さんに話をするのが少し心配なのね。

おばさんも一緒に行って話をするっていうのはどうかしら？

男 子： …おばさんが一緒に……



児童委員： お母さん、太郎君のこと心配していたし、もしよければ一緒に行かせてくれない？

男 子： はい。お願いします。その方が、安心です。



児童委員： よかった。じゃあ、おうちに帰ろう

### (鈴木さん宅の玄関)

児童委員：こんにちは

男 子：……

男 子：(元氣なく) ただいま……

母 親：(あわてて、奥から玄関まで出てくる) (心配している)  
あら、佐々木さん、あれ、太郎、どこに行っていたの？

児童委員：こんにちは。突然ごめんなさい。

さっき、コンビニの前で太郎君に会ってね。学校に行っているはずの時間だったし、それに元氣なさそうだったから声かけてたの。そしたら、学校のことで悩んでるって話してくれてね。

お母さんにも相談しようってことになって、一緒についてきたのよ。



母 親：そうだったの。ありがとう。

児童委員：鈴木さん、太郎君の心配していたじゃない。私も心配していたのよ。

母 親：ありがとう。今朝はいつになく元氣がなくて、担任の先生から連絡があって、今日は学校に来てないっていうから心配していたの。太郎も佐々木さんもあがって、ゆっくり話しましょう。

### (鈴木さん宅の居間)

児童委員：太郎君、1か月前くらいから、部活で仲間はずれにされるようになっていたんだって。

サッカーができればいいと思って我慢してたみたいだけど、練習時間が変更になったことも教えてもらえないことがあったり、練習でもペア組させてもらえなかったりで、サッカーも思うようにできなくなったってね。(男子の顔を見ながら確認する)

男 子：(うつむきながらうなずき) ……

児童委員：サッカーできないんだったら、学校に行ってもしかたがないかなって思うようになったって。

母 親：そうだったのね。そんな風になっていたのね。

男 子：(うつむきながらうなずき、ぼつぼつと話し出す)  
好きなサッカーができないんだったら、学校に行く意味ないし、勉強したって、いつもそのことばかり考えて、はかどらないし、なにしたって自分はダメなんだって思って…



母 親：あなたは、小さいころから、サッカー好きでみんなと遊んでいたのに。つらかったわね。(ぼつりと話す)

男 子：（うなずき、泣く）

児童委員：誰にも相談できず、一人で悩んでいたって。  
いなくなった方が良くと思うほど、思いつめていたよう  
でね、いっそのこと、学校の屋上から飛び降りたら、どん  
なに楽になるんだろうとか、思ったこともあったんだって。



男 子：サッカーしか取り柄がなかったから、僕からサッカーをとったら、何にも残らないし、僕なんか  
いなくなつて、誰も困らないと思って…  
こんなにつらいんだったら、いっそのこと死んだらどんなに楽かなあって思って…、でも、そん  
なことお母さんに話したら、心配するだろうし……

母 親：そこまで、思い悩んでいたのね。最近、元気がないし、ごはんも残したりして、いつもと様子が  
違うなあって思って心配していたのよ。つらかったわね。

男 子：心配かけてごめんさない……

母 親：いいのよ。よく一人で頑張ってきたわね。よく話してくれ  
たわね。ありがとう。



いなくなりたいって思ったことある？

男 子：うん、このままだったら生きててもしょうがないって考え  
てしまって…

母 親：そうしようと思ったり、実際にやったことはないの？



男 子：怖くてできなかったよ。

母 親：辛かったね。

そういう気持ちの時にはお母さんに話してね。  
これからどうしていったらよいか、一緒に考えていきま  
しょう。



男 子：うん。

母 親：担任の先生も心配していたから、おうちに帰ってきたこと  
連絡するわね。いいわね。



男 子：うん。

母 親：そして、担任の先生にも相談して、一緒に考えてもらおうと思うんだけど。

男 子：先生にも…？

母親：そう。  
学校のお友達のことだから、先生に間に入ってもらって考えてもらえたらいいんじゃないかしら。



男子：でも、学校みんなに、言いつけたとおもわれたらどうしよう…

母親：担任の先生に相談するのが心配なのね。

さっき先生から電話があったとき、悩んでいることがあるようだったら、遠慮なく相談してほしいって話していたわよ。安心して、相談してほしいって。



男子：先生がそんなこと言ってたの？

母親：そうなのよ。

相談するときは、担任の先生に言いつけたと思われたらどうしようって、心配していることも話すから相談してみない？



男子：うん、わかった。

児童委員：太郎君、よかったね。

男子：おばさんありがとう。



母親：じゃあ、今から電話するね。

### (居間にある電話で学校に電話をかける)

母親：鈴木太郎の母親です。担任の佐藤先生お願いします。

担任：担任の佐藤です。その後、太郎君はどうでしたか？

母親：ご心配かけましたが、先ほど、帰ってきました。家の近くにあるコンビニの前にはいたようで、近所の方が通りかかりに見かけ、声をかけてくださったんです。

担任：そうだったんですね。無事でよかったです。

母親：ありがとうございます。太郎から話をきいたところ、1か月前から、部活の仲間から無視されるようになっていたそうなんです。そのことで悩んでいて、自分なんかいなくなった方がいいんだとまで思い詰めていたようなんです。

担任：私も、最近元気ないと思っていたので心配していたところです。

母親：本人は、先生に言いつけたと思われるんじゃないかと心配して、誰にも相談できず、いたらしいんです。



担任：そうでしたか。一回、お話を聞いて、太郎君にどうするのが一番よいか一緒に考えて行けたらと思っていますがいかがでしょう。

私も部活の先生も太郎君から聞いたという形にしないで、まずは様子を見てみるということからできますし、太郎君がづらいようにはしないので安心してお話してほしいと思っています。

母親：そうっていただけると、太郎も安心して相談できると思います。

担任：今日は、一日お休みして、ゆっくりやすんでもらいたいと思います、もし、太郎君が良ければ、これからおうちに伺って、太郎君のお話を伺わせていただこうとも思うのですが？。

母親：はい、よろしくお願いします。

私も、どうしたらよいかと思ってなやんでいましたので、相談にのっていただけたらと思います。

担任：もし、顧問の先生の都合も合いましたら、一緒に伺いたいと思います。

母親：ありがとうございます。よろしくお願いします。

担任：では、のちほど伺いたいと思いますので、太郎君にもよろしくお伝えください。

母親：お待ちしております。よろしくお願いします。

### (居間)

母親：担任の先生に連絡したら、無事でよかったって。とても心配していたわよ。そして、顧問の先生とも一緒に考えてくれるって。

男子：ありがとう。

母親：今日は、一日お休みしてゆっくり休んでほしいって。

先生が少し話を聞きたいっていうから、これからおうちに来てくださることになったんだけど、もし太郎が嫌でなければ、太郎とも話ができればっておっしゃっていたけど、大丈夫かな？



男子：うん。

母親：もし、顧問の先生も時間が合えば、一緒にきてくださるそうよ。

男子：うん、わかった。でも少し心配だなあ。顧問の先生まで来るんだったら、言いつけたと思われるんじゃないかな。

母親：太郎が心配していることは、担任の先生にも伝えてみたら、太郎から聞いたってことにしないで相談するから、安心して話してほしいっていわよ。



男子：そうかあ。それだったら。先生に僕からも相談してみようと思う。



母親：じゃあ、先生が来るまでの間、部屋でゆっくり休んでいるといいわよ。いろいろ話をした疲れたでしょう。

男子：誰にも相談できなくて、つらくて…、今日は、話せてよかった。気持ちが少し楽になったよ。お母さん、おばさん、ありがとう。

児童委員：私にも、話してくれてありがとう。これからも、いつでも話を聞くから、声かけてね。

鈴木さんも、一人で抱えないでね。私も太郎君のため、鈴木さんのために何かできることがあれば力になりたいと思っているから、いつでも相談してちょうだい。



母親：佐々木さん、いつもありがとうございます。今日は太郎の様子に気づいて声をかけ、話を聞いてくれてありがとうございました。救われました。これからも、よろしくお願いします。